

### 第13回県政ひざづめ談議結果概要

開催日時：平成21年10月28日 13:30～

開催場所：山梨県男女共同参画推進センター

〔司会者〕

それでは大変長らくお待たせをいたしました。『ひざづめ談議』を始めさせていただきます。

それでは、まず横内知事からあいさつをいたします。

〔知事〕

皆さんこんにちは。

今日は皆さんそれぞれお忙しいところをこうしてお集まりをいただきましてありがとうございました。

この『県政ひざづめ談議』というのは、日頃いろんな分野で活躍をしておられる皆さん方と、ざくばらんにもいろいろなお話をさせていただくというものです。

皆様方はそれぞれ畜産農家、酪農家として日頃中心的に経営をいただいている方々と聞いております。飼料価格が非常に上がってきましてね、畜産農家、酪農家にとっては、これは経営上大変だろうと私ども心配しているんです。肉の値段とか牛乳の値段も非常に下がっている。やっぱりこれは不景気の影響があるんでしょうけれども、経営のご苦労は非常に大きいだろうというふうに心配をしているところであります。

まあそういう中であっても、本県の場合には畜産も酪農も、量的には小さい県ですが、質の高い製品を皆さんの努力で出しているということで、本当にありがたく思っています。今日は皆様方の日頃のそういったご苦労につきまして、いろいろなお話をざくばらんにしていただければありがたいというふうに思います。県として応援できることも限られてはいるわけですが、皆様方のこの努力に報いるために何かさらにできることがあればやらせていただきたいと思います。どうかよろしく願いいたします。今日は皆さんありがとうございました。

〔司会者〕

それでは、ここで本日出席しております県の担当者を紹介させていただきます。

畜産の振興対策ですとか、畜産経営の安定化対策などに取り組んでおります、白砂畜産課長です。

〔白砂 畜産課長〕

白砂でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

〔司会者〕

それでは早速ひざづめ談議を始めさせていただきます。

よろしく願いいたします。

知事、これが富士ヶ嶺の高原牛乳です。

〔知事〕

富士ヶ嶺の高原牛乳ですね。ちょっといただいてみます。ああ、うん、味が濃くておいしいですね。

この富士ヶ嶺高原牛乳は、そういうブランド名で色々PRをして、あっちこっち販売の施設を作ったりとか、いまやっておられるんでしょう。

〔参加者〕

販売の施設というか、プラントの建設はまだ・・・。

〔知事〕

県で確か少し補助して、こういう製品をある程度冷蔵しておく施設を造るのを少し応援したりとかやっていると思うんですが。

〔白砂 畜産課長〕

ショーケース。

〔参加者〕

あ、はい。今度Aコープで食品の販売の部分を閉鎖してしまったんです。それで売場所がなくなったので、今まで旧農協の事務所になっているところで、生産購買といって、餌を扱っている所なんですけど、そこの一角にショーケースを置いて、そこで牛乳を販売していますけれど・・・。じゃあ、あのショーケースは補助していただいたんですね。

〔白砂 畜産課長〕

そうですね。

〔知事〕

一個だけ・・・。(笑)

〔白砂 畜産課長〕

はい。

〔知事〕

たいして自慢するほどのことはないね。(笑)

〔参加者〕

やっぱり2、3個は・・・。

〔知事〕

そうだよ、本当だ。

〔参加者〕

でもまあ前よりはあれがあるお陰で、その事務所のほうでも売れますので。地元の人結構この牛乳を飲んでいただいていますし。

〔知事〕

富士北麓の別荘族もいたりしますからね。こういう新鮮な味の濃い牛乳というものをPRすればもっと売れると思いますね。

〔参加者〕

最近では結構学校給食でも使っている所が出てきたり・・・。

〔知事〕

富士五湖地域で？

〔参加者〕

国中のほうです。

それで河口湖町のホテルとか、そういう所でも地元の牛乳ということで・・・。

〔知事〕

ホテルとかでね。それは是非、まずそれから始めるべきですよ。

〔参加者〕

そうですね、はい。

〔知事〕

そうですね。それはいいことですね。

これは清里・・・、ミルクプラントですね。ミルクプラントはどなたが・・・、ああ、あなたがおやりで・・・。ご苦労さまですね。

ミルクプラントを造ったのは7、8年ぐらい前になりますかね。あの頃は造るはいいけど、大丈夫かな。つぶれちゃうじゃないかと心配したけど・・・。今しかし、もう従業員さんが2、30人になったんでしょう。

〔参加者〕

いや、そんなにはいない。パートさんも何人もいらっしゃるみたいですが、私も詳しいことは・・・。働いている方から知事も飲んでいらっしゃるから、よろしくお伝え下さいとのことでした。(笑)

〔知事〕

これ、パンフレットの写真に大勢いるから・・・。

〔参加者〕

それは、生産農家です。

〔知事〕

ああ、ミルクプラントの従業員さんじゃなくて生産者ですね。20人ぐらいね。

〔白砂 畜産課長〕

最近是小淵沢のアウトレットにお店を作りまして、非常に成績がよろしいです。

〔知事〕

そうですか。それは素晴らしいですよ。あの辺もやはり別荘族でお金持ちがいますからね。これ絶対いいですよ。なかなか一生懸命で・・・。

パンフレットに載っているこういう商品などは、どなたが計画されるんですかね。

〔参加者〕

ほとんど工場長が、企画したりしているという話を聞いてます。

〔知事〕

そうですか。それはいいことですね。

これはもみじ卵。忍野ですね。田辺養鶏場さんというのは・・・、忍野の内野にあるんですね。

〔参加者〕

はい、そうです。

〔知事〕

内野のどの辺になりますかね。

〔参加者〕

結構山のほうなんですけど・・・。

〔知事〕

山のほうでね。あの集落の真ん中じゃなくて、少し山のほうに・・・。

〔参加者〕

集落の山沿いですね。

〔知事〕

今何羽ぐらい常時・・・。

〔参加者〕

3万羽産卵期はやっています。

〔知事〕

お宅は・・・、工場生産的なやつがあるじゃありませんか、区画を区切って行う、あれですか。

〔参加者〕

うちは開放鶏舎で、集卵も手で集卵するんですよ。

〔知事〕

集卵も手でね。庭を走らせたりとか・・・、ま、そこまではやらないよな。

〔参加者〕

昔はちょっとやったんですけど、鳥インフルエンザが怖いのでやめちゃったんですよ。

〔知事〕

そうですか。集卵はみんな手でやるんですね。

〔参加者〕

自然に近い飼い方でやっているんです。

〔知事〕

それはいいですね。

これはさくら卵と言うんですか。

〔参加者〕

はい。

〔知事〕

これは黄身がすごいですね。さくら卵。

〔参加者〕

これは大阪の生協さんに週に4日出しているんですよ。

〔知事〕

大阪生協。

抗生物質は一切使わずに、大阪の生協に週4日出している。それはいいよね。やっぱり普通の物よりちょっと高いんでしょう。

〔参加者〕

そうですね。

〔知事〕

それは当然だよ。

これはオーガニック・・・これは黒富士さんね。黒富士農場さんは東京にもアンテナショップはおありですか。

〔参加者〕

アンテナショップはないですけど、高級食材店なんかに・・・。

〔知事〕

高級食材だね。この間、菅原文太さん、山梨の農業協力隊コーディネーターをお願いしているんですけどね、奥さんと一緒にみえられて。この奥さんが立派な人でね、その奥さんと色々話をしていたら、黒富士農場の卵というのは有名ですよ、とずいぶん言っていましたよ。知っていましたね。今度一度是非行ってみたいと言っていましたから、そのうちにまた連れていくかもしれません。

こっちは<sup>へにたま</sup>紅玉というんですか。これは北富士農場ですね。

〔参加者〕

会社は富士吉田にあるんですけど、鶏舎が鳴沢と忍野のほうにあります。

〔知事〕

鳴沢と忍野にね。そうなんですか。株式会社小林というんですね。

〔参加者〕

そうです。

〔知事〕

何万羽ぐらいお飼いはなっているんですか。

〔参加者〕

8万羽です。

〔知事〕

8万羽。こういう養鶏業というのは大体何万羽ぐらいが一番適正なんだろうね。人まで雇うと大変ですから、ご家族ですと・・・。

〔参加者〕

うちは農場とG P (Grading and Packing) センターと、あとスーパーさんとかに卸しているのので30人ぐらい従業員を雇ってまして・・・。

〔知事〕

そうですか。田辺さんの所は何名ですか。

〔参加者〕

うちはパートさんが7人で、私と主人で9人で、ローテーションでやっています。

〔知事〕

黒富士農場はどのくらい。

〔参加者〕

うちは場内だけですと25人。

〔知事〕

25人。かなり雇用吸収力があるね。今度みんな失業者が多いから雇ってもらおう・・・。

(笑)

これはフジザラクポークですね。これはいいですよ。これはどちらでお作りになったフジザクラですか。

〔参加者〕

千野ファームです。

〔知事〕

千野ファームさんというと中道の・・・。

千野さんもそうですけども、『T O K Y O X』を大分最近はお作りになっているということで。あれ、私もいただいて食べますけど、フジザクラポークも素晴らしいけど、『T O K Y O X』はものすごく品のいい油なんですよ。

これは麦芽ビーフですね。これはやっぱり麦芽ですからウィスキー、ということですか。

〔参加者〕

ビール粕です。

〔知事〕

そうですか。ビール粕をお使いになっている。

麦芽ビーフも有名でね。ワインビーフもありますけど、やっぱり肉質は多少甘みがあるような感じなんですか。

〔参加者〕

そうですね。食べておいしいですよ。

〔知事〕

おいしいよね。これも油のつきがいいですよ。これはしゃぶしゃぶ用ですかね。(笑)  
これは煮卵。この煮卵はどこでお作りになった・・・、やっぱり小林さんですか。

〔参加者〕

そうです。

〔知事〕

このマフィン・・・。

〔白砂 畜産課長〕

これは養鶏の農家と一緒に作っています。

〔知事〕

ご一緒にね。そうですか。

このソーセージなんかは、シルクの里振興公社がお作りなっているんですね、道の駅で  
ね。道の駅と言えば、この間本当にすごいじゃないですかね賞をお取りになってね。

これは与一味工房が作るけれども、お宅の肉をお使いになっている。

〔参加者〕

はい、使っています。

〔知事〕

いいですね、これね。これは評判高いと思うね。相当売れますか。

〔参加者〕

売れています。

〔知事〕

そうですか。それはよかったですね。

〔参加者〕

是非、食べて下さい。

〔知事〕

大体これで全部ですね。なるほど。いや本当に心強いですね。

それじゃ皆様方から色々とお話があればお伺いをさせていただきたいと思いますが。どうですか、何でもいいんですけどもね。

今年は飼料価格が上がって、また肉や牛乳の値段が下がって、本当になかなか黒字を出すのは大変だということを聞きますけど、そういうことですかね。

〔参加者〕

そうですね。うちでは菓子メーカーのカステラとかお菓子とか売り損じとか廃棄になるようなものをいただいて、それに獣医さんとか色々な人からどういうものを混ぜてやればいいのかということを知って、そして主人が自分で色々工夫してやっと飼料にできるようになったんですよね。モロコシを混ぜたり、小麦を混ぜたり、そして買って来た飼料もちょっと混ぜたり、魚の骨を混ぜたりとか、色々して飼料にしています。豚肉は安くなっちゃっているんですけど何とかやっていけるかなって感じですね。

〔知事〕

そうですね。飼料は割と安く、しかも質のいいものを作るような工夫をしているということですね。

〔参加者〕

そうしないとちょっと経営がやっていけないですよ。飼料関係が一番苦労ですよ。

〔知事〕

そうですね。作り損じをね。

〔参加者〕

そうしたら、今年になって県のほうから、そういった製品を使うと1トンにつき幾ら補助金が出るというようなことを聞いたんですが・・・。

〔白砂 畜産課長〕

そういうことへの支援にはステップ奨励金、アップ奨励金というものがございます。

また、そういうものをエコフィードと言いまして、食品残さを餌に専門に切り替える企業がございますが、現在畜産課の事業で2つの会社の実施しております。今後それがさらに増えてくると思います。

〔知事〕

そうですね。それはいいですよ。カステラが食えるじゃいいじゃないですか・・・。(笑)

〔参加者〕

ちょっと甘みが強いですよ。砂糖類が多いから、それを餌にする時カロリーを低くするのが基本だそうですね。

〔知事〕

余りカロリーが高いとやっぱりうまくない・・・。どんどん太ればいいというものじゃないんですね。

どういうところに一番皆さん方、気を遣うんですかね、この豚なり牛なりを飼育するには・・・。

〔参加者〕

子どもを育てる時ですね。今まで私はお勤めしていたのでそういうことに立ち会わなかったんですけど、この2、3年立ち会うようになってわかったんですが、やっぱり子どもをいかに減らさずに育てるか、です。生まれた状態が10匹であれば10匹を10匹なりに育てる。大体2、3匹は亡くなっていくんですよ。ひどい時は全部だめな時もありますよ。だからそれをどういうふうに売れるまでに大きくもっていくか。やっぱり環境もあるし色々あるから大変ですね。

そしてそこで水の環境も出てきますね。停電すると水が飲めないからどこからか水を引いてくるとか、主人も色々考えてやっているんですけどね。

それからやっぱり環境、あの豚のたい肥の臭いとかのこともあって、畜産関係には厳しい環境になっていましてね。それに対するもう少し研究をしてもらって、臭いをどういうふうにするかということも考えてもらっていけば、もっと畜産関係が発展していくのではと思います。町中でもできるような畜産ができればいいなと考えていますけれど。

〔知事〕

そうですね。臭いが取ればね。最新鋭の養豚なんかは臭いをかなり無くして、ドイツが何かの技術でやってはいますけどね。それでもやっぱり全く出ないかということとそうでもなくてね。夏場だとか、そういう時にはやっぱり臭いはあるようです。八幡平とか、あの辺に非常に大きなドイツの技術を入れた養豚施設があるようですけどね。やっぱりなかなか難しいようですね。

じゃあいかがですか。

〔参加者〕

すみません。さっきのエコフィールドについてちょっとお聞きしたいんですけど、エコフィールドの補助を受けているところが今2社ぐらいあるとおっしゃいましたけど、食品残さを使ったことに対する補助ですか、それとも、そこで作った物を使ったことに対する補助ですか。

〔白砂 畜産課長〕

今、養豚なんですけれども、畜産試験場でそのエコフィールドの餌を使って育成試験をしまして、その餌を使うことでどんな豚が生産できるかということで反復試験をしております。この間『フェスタまきば』というフェスティバルがまきば公園でありましてね、その時に皆さんにそのお肉を召し上がっていただいたんですけど、大変好評だったんですね。現在試作品ですので、今後それを実際に生産者の皆さんが使えるように図っていきたく

思っているところです。

この補助制度は、その食品残さを餌に変える会社に対しての補助なんです。

〔参加者〕

じゃあ食品残さをそのまま使っている酪農家とか、そういう所に関してはそれは適用されない・・・。

〔白砂 畜産課長〕

先ほどの方がおっしゃったように、今のところ養豚には豆腐粕とかを使うための取り組みへの支援というのはあります。

〔参加者〕

じゃあ私たち酪農とは無縁の事業・・・。

〔白砂 畜産課長〕

今のところは、そうですね。

〔参加者〕

その件に関してなんですけど、私たち白州なんですけど、地元和菓子屋の残さを利用していただきまして、食べさせた牛を出荷してみても結構いい成績が出ているんですよ。だから今後もなるべくならそういうことをさせていただいて、飼料代のコストを下げるように努力して活用させていただきたいと思っています。

〔知事〕

成績はなかなかいいですか。

〔参加者〕

よかったです。重量も取れましたし、結構中味もそれなりで・・・。

〔知事〕

なるほどね。それ、ずいぶんコストが安いですか。

〔参加者〕

コストというのは、飼料が掛からないコストで、いただいでくる餌は餅が主なんですけど、そちらは無償で頂いているんですよ。だからその分だけはね。やっぱり餅は人間が食べてもおなかの持ち具合がいいじゃないですか。あれと同じでやっぱり牛にも結構・・・。松坂牛は餅をついて食べさせると聞くじゃないですか。だから餅はいいと思うんですよ。それで通年で使ってみたら結構良かったんです。

〔知事〕

量は十分あるんですか。

〔参加者〕

会社側にも聞いてないのでそこまでは何とも。やっぱり皆さん今まで使っていた餌に慣れているからなかなかそういうのに手を出さないんです。でもたまたまどうだという話があって、じゃあうちで使わせてもらおうと言って、うちで使ったり、こちらにも少し分けていただいて結構・・・。

〔知事〕

良かったですか。

〔参加者〕

良かったです。牛もすごく喜んでいました。

〔参加者〕

人間がおいしいですものね。

〔知事〕

喜ぶでしょう、それは。

〔参加者〕

餌を与えたあとに餅を持ちに行こうとすると、餌を食べるのをやめてこっちに付いてくる。(笑)開けるのを待ってすごい競争ですよ。

〔知事〕

麦芽に混ぜるんですか。

〔参加者〕

いえ、麦芽ビーフにも和牛にも仕上げの牛にあげています、若干ですけど。ただ通年ないのがちょっと。

〔知事〕

やっぱりデザートがいるということですね。(笑)

〔参加者〕

ある程度こういう結果が出たから、今度はそれなりに会社さんをお願いして、できれば回してもらいたいという話をすれば・・・。

〔知事〕

そういうエコフィードの取り組みにはちゃんと補助が出ているでしょう。

〔参加者〕

いいえ、でも、そこまでは行かなくても、経営改善につながれば私たちもいいと思うんです。いい結果が出るんなら。そして、もしそういう残さを大量に回していただけるんなら皆さんで使えたらなと思って・・・。

〔知事〕

そうですね。

先程の菓子メーカーさんのはお宅以外に使っているんですかね。

〔参加者〕

専門に飼料を扱う会社にも委託しているらしいですよ。そしてあと2、3軒のところで持ちに来てもらってやっているそうですけどもね。

〔知事〕

ほかにエコフィードの関係はどうなんですか。お使いになっているところとか・・・。

〔参加者〕

うちは豆腐粕を使っていますが、今言ったように補助対象外の酪農なので・・・。ただやっぱり餌の高騰があって、うちの主人がどうにかして下げられないかということで使い始めたのが豆腐粕なんですよね。

〔知事〕

国内飼料というかね、そういうものを使おうということで富士ヶ嶺で何かやっているんでしょう。

〔参加者〕

自給飼料ですか。自分の所の草を使ったりですか。

〔知事〕

そう、自給飼料。

〔参加者〕

そうですね、皆さんやっておられます。うちの場合はそれまで使っていた餌というのは富士ヶ嶺では採れないルサンという草を主体に使う餌の組み立てになっていましたので、自分の所の牧草地というのは親戚の子が使ってたんですけど、こんな時を迎えてこれからはやっぱり自分の所の草を自分で使って、少しでもコストを下げる飼い方をしていかないと、時代を乗り切れないなというのを感じます。

〔知事〕

酪農、特に富士ヶ嶺は乳価がうんと落ちてきましたからね。もう何年か前からですけど大変ですよ。これはもう大変なことだと思いますよ。

〔参加者〕

そうですね。うちの主人の親の代とか、おじいちゃん、おばあちゃんのやっている代のほうがコストも低いし、乳価も高かったですね。だからその頃、酪農というのは結構経済的にはゆとりのある経営ができたんですけど、富士ヶ嶺地区内にはもう何年も前からアメリカ型農業を目指す人がいて、大きな牛舎を建てて、牛をたくさん飼ってという、そういう飼い方の方向に走ってきていたので、それで多くの負債を抱えた人たちが、うちも含めてですけど、たくさんいらっしゃるので、こういう時代が来て負債を返済していくのに四苦八苦しているというのが現状ですね。

〔知事〕

そういうことを聞きますよね。確かに大変でしょうね。  
ほかにはいかがでしょうかね。

〔参加者〕

うちでは発酵飼料を独自で作っているんですけど、その時に、味噌とか生協さんで揚げたてんぶらの油、出所がきちんとしていて、遺伝子組み換えされてないとか、いろんな基準を全部クリアしたものでないと使えないですが、そういうものを発酵飼料として作って、鶏に与えています。

先ほどの話の中で、臭いの問題がありましたよね。ただ一度来ていただければ分かるんですが、うちの鶏舎は臭いが非常に少ないんですね。それは機械だとか薬を与えるのではなくて、その地域に住んでいるいい微生物を元気にさせるといって形でどんどん分解させてしまうんです。そういう技術ですから、すぐに今日やったから明日効き目が出るとかではなくて、もう15年も前からやっているからということもあるんですけど、ちょっと最初の時の施設費用は掛かりますが、こういう技術を県で指導していただければと思います。畜産の場合には臭い、それからたい肥ですね、糞の処理、そういうものがあってやっぱり後継者が非常に見付かりづらいというのがありますよね。山梨県は環境がいいじゃないですか。この環境を売り物にするためにも県ではそういう所に力を入れてもらって、山梨の畜産もそういうところから元気になってくれると、また県のイメージも上がりますしね。是非そちらのほうを検討してほしいです。

〔知事〕

今でもたい肥をお作りになって、例えば桃農家とか、そういう所と提携をしているわけですね。

E M Iをやっているんですか。

〔参加者〕

今うちでやっているのはB M Wと言いまして、Bがバクテリア、そしてミネラルと水、

それでやっています、非常にいい結果が出ています。

〔知事〕

そうですか。何軒ぐらいの農家と提携して・・・。

〔参加者〕

今、農家のほうはまあほとんど果樹農家なんですけど、そちらが25軒ぐらいですね。

〔知事〕

私も一回行った時にたい肥を見せてもらいましたが、いいたい肥ですよ、本当ね。素晴らしい、臭いはないしね。BMWはいいですね。富士五湖地域でもずいぶんやっている人いますよね。

ほかに手を挙げた方おられますか。

〔参加者〕

ちょっとお聞きしたいんですけど。去年からの餌高とか、相場が去年から比べると今年はものすごく低くて、資金繰りも大変なんですね。養豚農家に限らず皆さんもそうだと思うんですけど。うちの主人が東京に会議に行った時に他県の人から聞いたという話をしてくれましたけども、何か国のほうからそういうお金を貸し出すということがあるらしくて、他の県の方はそういう資金を無担保ですごく安く貸していただけるということで恩恵を受けているという話でした。主人も知らなかったということでしたが、山梨に帰ってきてから、ある人が県のほうへ相談に行ったら「担保がなければ貸し出しできません」と断られたという話を聞いたんですって。他県の方は無担保で大勢借りているということで、そういうことがあるのであれば是非こんな時期なので山梨でも提供していただければ乗り越えられるんじゃないかなということをおもったんですけど・・・。

〔知事〕

だけどおかしいな。無担保、無保証の融資制度というのはあるんですよ。普通の中小企業の皆さんだってみんなそれを借りているわけですよ。今の緊急保障とか、政府でも言ってますけども、県でも同じようなものがあるんですよ。県の信用保証協会というのが保証して出している。

〔参加者〕

国のほうから各県に下りてきていてという話ですか。

〔知事〕

畜産関係でありますかね、資金繰り融資。

〔白砂 畜産課長〕

はい。

〔知事〕

これは無担保、無保証でしょう。

〔白砂 畜産課長〕

その設定になっておるんですが、保証協会のほうとの接点の中で、保証協会のほうでの判断もありまして…。昨年は希望者がなかったものですからその資金は活用してなかったんですが、現在それをできるように進めておる最中です。

〔参加者〕

では申し込みすれば…。

〔白砂 畜産課長〕

まだ確立していませんので、今その手続きをしておる段階です。

〔知事〕

商工業者の場合には、商工業振興資金というものの中の経済変動対策融資と言うんですけども、最大5千万円まで、無担保で、第三者保証人なしで金利1.9かな、1.8か1.9とか、大体それを大勢借りていますね。今、中小企業者の3割ぐらい借りているんじゃないでしょうかね。畜産は商工業じゃないからね、なんて言われて、それじゃうまくないよね、全く。

〔参加者〕

何しろ相場がすごく低くて、価格が下がっているので何か貯金を切り崩してまで経営をしているという話を聞いていますので…。

〔知事〕

お宅の所は今までうんと経営が良かったから、だから資金なんか借りるようなことはなかった…。だけどそれはちゃんと信用保証協会に話して、畜産関係、酪農関係もちゃんと借りられるようにしなきゃあだめだと思えますね。

〔参加者〕

やっぱり後継者を、若い後継者を作るためにも夢の持てる、そういう経営ができないと。やっぱり何と言ってもお金ですよ、若い人は。お金をたくさんくれればやりたいなという人もいますのでね。

〔知事〕

それはね、まあ所得ですね。

〔参加者〕

なかなか難しいですよ、農家もね。3K、汚い、臭い、きついなんて…。3Kでなかなか担い手が見付からないで。(笑)

〔知事〕

たけどアメリカにしたって、オーストラリアにしたって、それが主力産業ですからね。

〔参加者〕

うちは『T O K Y O X』を飼っていて、東京のデパートしか売っていないんですけどね、デパートで見た時に、「えーっ、こんな高く売っているんだね」とびっくりするぐらい高く売っていたんですね。でも生産者に戻ってみると、もっと高くでもいいんじゃないかなというふうな金額なんですよ。やっぱり生産者がもっと夢の持てる政策を考えていただきたいなと、今日つくづく思いますね。

〔知事〕

なるほどね。その資金繰り融資の話はちょっとよく調べましてね、畜産農家も使えるようにしますよ。

〔参加者〕

すみません、資金の話聞いて、私も1つだけどうしても聞きたいことがあって…。私たちは生産組合という組合を独自で作って活動しているので、山梨県の酪農協に所属していないんです。まあいるんないきさつがあって、途中そういうふうになったんですが、その関係で補助が付く国からの資金とか、そういうのが一切借り入れできないんですよ。同じように税金を払っていて、今回酪農の場合はこの急場をちょっと助けて下さるということで、国のほうの決定で搾乳牛1頭あたり2万5千円の補助を出すという決定が下って、それでほかの農家は1頭あたり2万5千円の補助を受けているんです。だけど生産組合は0です。同じように100頭飼っている農家では、片や250万円の補助があり、片一方は100頭飼っていても0です。国の制度で決めてくれたことなのに、この差は一体なんですかといつも思うんです。

〔知事〕

酪農業協同組合に入っていないんですね。

〔参加者〕

はい、山梨県酪連と言った時代からちょっと色々ありまして…。売るということに関してそこで一括で集配していたんですけど、全然努力をしてくれなくて、結局いらなければということで…。

〔知事〕

ご自分で売るようにしたんですね。

〔参加者〕

それで組合というのを作りまして・・・。

〔知事〕

生産組合を作ってね。

〔参加者〕

はい。酪農協に入っていると、例えば牛乳の値段の調整のために生産調整というのがあるって、一日何キロ廃棄して下さいという、それに従わなければいけないというのがあるんです。でもその生産調整の金額というのはとてつもない金額じゃないんですよ。そんなに1カ月間毎日毎日捨てるといってもないし。だから何万円かの生産調整をすれば250万円の補助が受けられるという農家と、独自に売っていて生産組合に入っていないから、その何万円かの廃棄する牛乳もなければ、250万円という補助も受けられないという・・・。

〔知事〕

それはおかしいよね。どうなんですか。

〔参加者〕

政府で決めた制度なのになぜそうなるのかというのが、同じ税金を払っている者として私にはとても・・・。

〔参加者〕

ちょっといいですか、私はその県酪農協のほうに入っている者ですけど、私はそれは仕方ないと思っています。そのために皆さん県酪農協に手数料を支払い、また関東乳販連というところに手数料を払いという形の中でやっているんです。それで、その関東乳販連という所に理事さんとかが出ていくにしても、乳価交渉でも、ある意味向こうの言いなりではないですけども、結局向こう主導で始まっていく中で、皆さんは自分たちの組合で自分たちで高く売ってという形でやっている。それは高いか高くないか分からないけれど、それを選択したんですからね。やっぱり国という大きな組織の中で、その組織をとお金が出てくるんだから、それは組織に入っていない者には行かないのは当然のことだと思う。仕方ないと思います。

〔参加者〕

でも私は、例えば・・・。

〔参加者〕

ごめん。でもここで今知事を前に話す内容ではないと思うので、後で話しませんか。ここで、本当知事の前で話す内容ではないと思います。

〔参加者〕

その今言われたことですけど、地元の農協を支えているのは私たちなんです。地元の農協には一切手数料は入らないので、地元の農協は私たちアウトサイダーで売っている組合がなかったらもうとっくにつぶれてしまっているんですよ。だから農協という組織を支えているという意味では・・・。

〔参加者〕

じゃあ農協に補助してもらって下さいと言いたくなる。私たちは県酪に手数料を納め、地元農協に手数料を納め、それだけのことをして両方の組織を支えています。

〔参加者〕

地元の農協、両方に納めている・・・。

〔参加者〕

両方、私たちの場合ね。梨北の場合は両方に手数料を納めています。だから皆さんたくさんのお金を取られているんですよ。その中でやっているから・・・。ここはこれでちょっと終わりにしましょう。次の話に行きましょう。

〔白砂 畜産課長〕

加入されるかされないかは個人の皆様の選択なんですけれども、国が進める牛乳の計画生産に乗って行われる方をインサイダーと呼んでいるんです。それに乗らない方をアウトサイダーという、余り使わないんですけど、そう呼んでいます。その計画生産に賛同して知事が指定します指定生乳生産者団体というのがございまして、それが昔の県酪連、今は関東乳販連（関東生乳販売農業共同組合連合会）ということで、関東一円のブロックになっています。そのブロックに所属した方々には、そういった救済措置の助成事業の対象になりますが、関東乳販連に加盟されない方々は、その対象外になってしまうという、こういうシステムなんです。

〔知事〕

まあ、これはどっちがいい悪いじゃなくて、よくそういうことがあるということは頭に入れておきましょう。これは話せば大規模になるかもしれないし。これは山梨県がどうというんじゃないで、そういう国全体の制度になっているわけですよ。

〔白砂 畜産課長〕

そうです。

〔参加者〕

補助と付くものは一切借りられない、資金でも。それがどこまでそうなんだろうと。資金的なものまで借りられないというのはおかしいんじゃないかと思えますね。ただ法外な値段で売っているんだったら別ですけど、自分の所で製品にして売っているんだったら別ですけど、そんなに断トツに差があるわけじゃないんですよ。

〔知事〕

酪農というのは国に協力しているインサイダーと協力していないアウトサイダーとか分けて・・・。

〔参加者〕

結局そういう形になっちゃうんですね。計画生産というものがある業種であるために、それに協力しているか否かでやっぱり国、政府の対応が違うという形になってしまう。

〔参加者〕

でも肉用牛だってそうじゃないですかね。経済連直属の会社から取っている所には補助金が出るけど、個人で農協さんを通して手数料を払って買っていてもそれには補助金が出ない。それと同じようなルートじゃないかと思いますけどね。

〔白砂 畜産課長〕

原資の仕組みが、括りが違うんです。

〔参加者〕

そうですね。だからいくら農協の喉を通していても、そこはだめだと言われました。

〔知事〕

まあどっちが正しい云々はなくて、そういう問題があるということだけ頭によく入れておきましょう、ね。

〔参加者〕

いいですか。畜産は確かにここ数年大変だ、大変だと言われている業種の中で、何かさっきから暗い話ばかり進んでいるので、ちょっと明るい話もしたいなとずっと考えていたんです。畜産も普通の野菜農家も果物農家も同じだと思うんですけど、やっぱりやり方次第で、今、この時代でもしっかり畜産の中でも黒字でやっている方たちもたくさんいらっしゃると思うですよ。やり方次第と一言に言ってしまうてはいけないのかもしれないけれど、やっぱり私は常に前向きに明るくというので仕事をしているので、たまたま運よく、うちもこの厳しい時代も黒字のままで、赤字にはならずに通ってきたのでこんなことを言われるのかもしれないんだけど、でもやっぱりやり方次第。うちも酪農ですので牛乳を出荷している。かと言って自分の所で加工して云々しているわけではなくて、同じように今言った県酪を通して売っているんですね。そういう中で、世間一般の人たちもやっぱり今畜産は大変でしょう、大変でしょうって言うんだけど、そうじゃない人もいるんだということをごどこかで発信したい。

〔知事〕

どういう点が一番工夫をしてきたんですかね。コストダウンですか。

〔参加者〕

やっぱりコストダウンですよ。そして自給飼料の増産。そのためには自分たちの労働力は増えるにしても、自給飼料の増産。そして乳牛の改良。1頭あたりの搾乳量、牛乳の量。

〔知事〕

なるほど。搾乳量を増やすと。

〔参加者〕

例えば一日一頭平均25キロの家と30キロの家では、一頭に対して5キロ違えば40頭50頭いるとそこに大きな差が出ますよね。やっぱりそういうところを工夫して、もう何年も前からその乳牛改良はしてきたんですが、そういうことが色々相まって、たまたまえらかった時に対して全部がうまくいってしまって、というような。たまたま運も良かったんでしょうけど、そんなに余分に余裕はなくても、経営が成り立てばまだそれだけでも良かった。まあ去年、一昨年ですけどね。

〔知事〕

清里でやっておられるんですか。

〔参加者〕

北杜市の長坂町。

〔知事〕

長坂。蕪ですか。

〔参加者〕

蕪です。

〔知事〕

蕪も何軒かありますものね。

〔参加者〕

そうですね。結局あそこら辺だから土地も少ないので借地、借り入れ農地が多いんですけど。だからうちはトラクターで15分とか20分とかかけて行くような所まで行ってでも畑を作って餌を作るというふうにして、いかにたくさん飼料を作るかということを考えています。

〔知事〕

あの地区には数軒の農家はあるんでしょうけども、みんな同じように色々工夫し合っ

やっているんですか。

〔参加者〕

そうですね。

〔知事〕

各農家みんなばらばらですか、そうでもないですか。

〔参加者〕

ばらばらの部分とばらばらでない部分があって、やっぱりちょっと離れた所の畑なんかは4軒共同で、多分県とか国の事業でしようけど桑の抜根とかして、とても広い畑にして、牧草を作ったりとか、そういうことをしています。

〔知事〕

そういう工夫をしてね。

〔参加者〕

いつも畜産の話になると暗くなるんで、いかに明るい話ができるかということを私は常に考えるんですよね。やっぱり皆さんの気の持ちようだよって。マイナス思考ではなくてプラス思考で行きましょうという感じで話をするんですけど。

だから私たちも全部ホルスタインの牛を産ませるのではなくて、F1と言って和牛の精液をホルスタインに付けて、肉用牛のスモール、子牛で1カ月ぐらい家で飼って出荷したりとか、そういうこともしているんですね。その中で今度はいかにそれをよそに高く売るかということを考えて飼うとか、やっぱりそういう一つ一つの工夫、例えばよそで10万で売っているものがうちが15万とすると、5万はうちのほうが利益があるのだから、そういう価格で、それが年間30頭になるとやっぱり大きいですよ。そういう本当に細かいことでもちょっとした工夫をしながら経営をやっていくといいのではないかなというふうに思っています。

〔知事〕

これからの時代は厳しい時代ですので、これはもう畜産に限らず、酪農に限らず、一般の中小企業皆全てそうですね。それぞれがやっぱりいろんな工夫を凝らして、少しでもコストを下げ、あるいは作ったものをうまく販路を広げ、そういうそれぞれの努力をしていかなければなかなか立ちゆかなくなってきましたね。やっぱり日本は昔、高度成長の頃というのはどんどん需要があって、何でも売れたわけですけど、今はもう売れなくなってきましたからね。そういう中で、どうやってコストダウンをしながら工夫をしてやっていくかということですよ。工夫を凝らすということは本当に大事なことです。前向きに明るくということも非常に大事ですね。

〔参加者〕

そうですね。

〔知事〕

ほかにいかがですか。

〔参加者〕

私もやっぱり楽しい農業を目指しています。

〔知事〕

どちらで・・・。

〔参加者〕

忍野です。養鶏をしているんですけども、皆さんとこの前にちょっとお話したら割と皆さん楽しんでいらっしゃるんですね。皆さん生き物を飼っているからかどうか分からないんですけど、生き物を飼っているその愛情からそういうことになるのかもしれないですけども、楽しんでいる、私はすごいそれ驚きだったんですね。それに女性の方でも割と皆主導権を持っている方がいるんだとすごく驚いて・・・。

〔知事〕

生き物ってというのは楽しいでしょうね、きっとね。

〔参加者〕

そうですね。対面販売で自分で作ったものをお客様に提供しているもので、直接すぐに反応が返ってくるんですね、この間のおいしかったとか。そういうことでお客様とのつながりも。

〔知事〕

対面販売ってどこで売っているんですか。

〔参加者〕

養鶏所の隣のちょっと小さい所で直接の販売をしているんですけど。でも楽しいばかりじゃあ生活していけないので、やっぱりそれに伴って収入の面ですよ。そこがクリアされるとすごくいい業種だと思うんですけどね。

〔知事〕

国道、あそこずいぶん通りますからね。やっぱり買っていくんでしょうな。

〔参加者〕

山中湖の近くなもので、別荘のお客様とか・・・。

〔知事〕

別荘の人たちね。

〔参加者〕

富士五湖の観光客が多いんですね。富士山がとってもよく見えるので。

〔知事〕

それに大きな企業あるから。みんなお金持ちだから。

〔参加者〕

そう。(笑)

〔知事〕

質の高いものを、お金を出して買いますよね、いいものをね。

〔参加者〕

そうなんです。口が肥えているというか、買ったものに割と言いますよね、ただ食べるだけじゃなくて。だから結構生き甲斐にもなるかもしれないんですけど。

あとは後継者ですよね。収入があって生活できないとやっぱり後継者もね。後を継がせたいと思うんですけど、やっぱり生活が成り立たないとね。だから今からはやっぱり自分たちで色々工夫しようと思って、卵一本じゃちょっと無理かなとは思いますが。それに付随しているんなものを。やっぱり卵一本といってもちょっとうちは難しいですね。直接対面販売のその量だけを残して、あとの問屋さんに卸していたのを全部やめて、自分で値段を決めて高く売っているんですけど、それでもやっぱりとんとんというかね・・・。

〔知事〕

とんとんですか。

〔参加者〕

そうですね。だからそれに伴って、もっと違うことをちょっと今から考えないと、思っています。

〔知事〕

奥さんの所は同じ忍野でしたね。

〔参加者〕

そうですね。

〔知事〕

そして20人ぐらい雇っているわけでしょう。

〔参加者〕

20人はいないんですけど、やっぱり家でも倉庫の一角で売っているんですけど、最近やっぱり近隣のお客さんが結構来るようになりまして、おいしかった、また食べたい、この卵じゃなきゃほかの卵は食べれないなんていう、嬉しい悲鳴を聞くと本当にやりがいもあるし、また明日もがんばろうという気持ちになります。やっぱり生の声が聞けるというのは本当に張り合いになりますよね。そして生産から販売までできるということが、またそれも一ついいことだと思います。

〔知事〕

確かにね。卵の場合には直にそのまま出せるからいいですよ、そういう点はね。

〔参加者〕

でも卵は単価が安いですよ。うちはパックでスーパーとか個人のお店とかに卸しているんですけど、相場が低いですよ。何か昔から余り変わらないというふうに何かで聞いたことがあるんですけど・・・。

〔知事〕

卵が一番その点じゃね、物価の優等生だ。

〔参加者〕

物価が上がっても卵って昔から変わらないというのがやっぱりきついですよね。

〔知事〕

その通りですね。

〔参加者〕

そして牛乳は下がっていますから。(笑)

〔知事〕

結局子どもが少なくなってきた分だけそうなるんですよ、やっぱりね。

〔参加者〕

うちでも明るいニュースというか、明るい経営に持っていきたいということで。うちの息子も後を継いでもいいということで肉用牛をやっているんですけど、良質なたい肥を取って、それを田んぼに還元して、低農薬、有機低農薬、低化学肥料で米を作っています。今、梨北信玄米というのを出していますよね。うちもあれに挑戦して、去年あたりから千袋以上一応採るようになったんです。去年は1,200袋ぐらいあったかな。今年はちょっと不作なものでそうはいかないですけど、でもそういうふうにして若者が定着して、牛を飼いつつ、なお、いなくなった農家の人の手助けをしながら米を作っていくということ

はまたいいことかなと思って。一応バックアップをしながら、私たちも精一杯手伝いながら息子と一緒に今やっているんですけど。

やっぱり今一本で行くというのはちょっと危険かもしれませんよね。だから何か副産できるものがあればそれをやりつつ、本業に精を出すというのもいいかと思います。

〔知事〕

やっぱり畜産でできたたい肥を使って米を作るといい米ができますか。

〔参加者〕

全然違います。やっぱり有機を入れないものは艶もないし、味も悪いしということで、有機を入れるということはまた格別ですね。

〔知事〕

白州のどの辺にあるんですか。私も白州はよく知っていますから。

〔参加者〕

白州の中学のすぐ上、べるが通りにほとんどの田んぼはあるんですけど……。白州に出てきたら是非寄って下さい。おいしいお米ごちそうします。

〔知事〕

そうですか。確かにそうですね、何人かの方がおっしゃっていましたが、単に畜産とかそういうことだけでなく、プラスを。

〔参加者〕

やっぱり何かちょっとしたものをね……。

〔知事〕

桃農家と一緒にやるとか、やっぱり複合経営というのは大事でしょうね。

〔参加者〕

できることは進んで、自分で率先してやるようにしないと。誰かがやるだろうと手をこまねいて待っていたのでは、なかなか進歩がないです。だからやっぱりできることは自分からと思って、私もまだこの年で稼いでいます。

〔知事〕

いやいや、ご苦労さまですね、本当にね。

〔参加者〕

やっぱり意欲ですね。

〔知事〕

しかし子どもさんが、跡取りがいるということは心強いことですね。

〔参加者〕

お陰様で、今何とか・・・。

〔知事〕

本当に孝行息子ですね。

奥さんはいかがですか。

〔参加者〕

うちでは肉牛をしていますけど、前は須玉の市場から子牛を仕入れていたんですが、今は繁殖に力を入れまして、すべて子牛は仕入れていません。自分の家で生まれた子牛を肉にしています。それで八ヶ岳牧場を利用してまして、ほとんど牧場に委託しています。そして分娩の時には家に連れてきてもらって分娩させて、離乳の時にまた牧場の方たちが来てくれて連れていく。だからほとんど八ヶ岳牧場に委託してまして、とても役に立ってありがたく思っています。もうちょっと牧場のほうにも幅を広げてもらって、たくさん収容できるようにしてもらえれば・・・。

〔知事〕

八ヶ岳牧場にはどのくらいいるんですか。

〔白砂 畜産課長〕

今340～350頭ですね。

〔知事〕

これがいっぱいですか。

〔白砂 畜産課長〕

まだ若干余裕があります。400頭まで・・・。

〔参加者〕

どうしても冬場ですね、戻ってくるのが多くて。

〔白砂 畜産課長〕

冬場牧場へ預ける方の希望が多いんですけど、冬場は200頭までしか入舎ができません。

〔参加者〕

すごく助かっています、牧場さんには。

〔知事〕

そうですか。じゃあ全部預けて、分娩の時だけ連れてくるんですね。

〔参加者〕

そうです。だから頭数が44頭いるんですけど、ほとんど牧場に行っています。すごく助かっています。

〔知事〕

何か介護施設みたいですね。(笑)

〔参加者〕

子牛を購入しないということですからごくよくなって、採算もとれます。

〔知事〕

本当に自然のものを食べているからいいでしょうね。

〔参加者〕

そうです。栄養たっぷりで放牧してくれていますから。

〔知事〕

栄養たっぷりでのんびりとね。

〔参加者〕

とてもありがたく思っています。今後ともよろしくお願いします。

〔参加者〕

ただ、それに関してですけど、牧場の使用料をちょっと補助していただけると。(笑)

〔知事〕

この人によく言って下さい。(笑)

〔参加者〕

夏場はいいんですけど、冬場だけでも・・・。

〔白砂 畜産課長〕

関東近辺でも一番お安くなっているんです。

〔参加者〕

ですよ。よそを聞くと安いよ。

〔参加者〕

牧場がなかったら、うちはそのなりに頭数できません。お陰さまでそのためにたくさん繁殖をやってられるんです。大分子牛を仕入れるのと、うちで産ませてそれを肉で出すのでは採算が全然違ってきます。とても助かっています。

〔知事〕

冬場連れて来ないといかんとすると、ちょっと耐えがたいですね。

そうですか。分かりました。

ほかにはいかがですか。奥さん、どうでしょうか。

〔参加者〕

うちは養豚経営しているんですけども、ほとんど夫婦二人でやっている状態で、種を付けて出産させて6カ月間大きくさせて出荷するというパターンで、もうそれだけで手一杯です。今餌が高騰していますけども、うちはパン粉を長野のほうから持ってきていただいて、それを混ぜて餌としてやっているんですけど、それでもなかなか経営が厳しいです。それで子どもが今大学生二人もいるので、そちらのほうも・・・。

〔知事〕

じゃあ金が掛かるしね。

〔参加者〕

だから子どもが全部自立してしまえば少しはいいかなと思うんですけども・・・。

〔知事〕

自立すれば、ある程度夫婦二人でやっている分にはまあまあですか。

〔参加者〕

あと借金を返して・・・。

〔知事〕

借金を返して・・・、それはなかなか大変。どちらでおやりになっているんですか。

〔参加者〕

都留市です。

〔知事〕

都留市でね。そうですか。

あれ、年間1,200頭も出しているんですか。すごいじゃないですか。

〔参加者〕

単価が安いので、もっと大きくないと・・・。

〔知事〕

ご夫婦だけで1,200頭、出せるんですか。

〔白砂 畜産課長〕

がんばれば。

〔知事〕

そうですか、それはえらいことですな。

〔参加者〕

仕事の面については手一杯ですけど、お金は足りません。(笑)

〔知事〕

そうですか。本当に大変ですよ。全く暇な時はないでしょうね。後継者がいない、ということですが。

〔参加者〕

息子はいるんですが・・・。

〔知事〕

息子さんは・・・。

〔参加者〕

東京農大に。

〔知事〕

それはいいじゃないですか。

〔参加者〕

4年生なんですけど、ちょっと厳しいからほかの所を探して、今内定を一ついただいて、とりあえずそこに勤めてもらおうと。

〔知事〕

農業以外の所へ。

〔参加者〕

ちょっと関係があるんですが・・・そこでしばらく働いて・・・。

〔知事〕

そうですか。じゃあ困るじゃないですか、サラリーマンになってしまって。

〔参加者〕

でも後継者はやっぱり一度外に出て家に入ったほうが絶対いいと思います。

〔知事〕

それは世間を知らんと困るということはあるかもしれないね。しかしそれっきりということもあるからね。(笑) 困るじゃないですか。

奥さんはどうですか。

〔参加者〕

私も酪農なんですけども、私もとにかく楽しく、あまり細かいことは…。実は経営のほうにはあまり首をつっこんでいないんですが。

〔知事〕

ご主人に任せているわけですね。

〔参加者〕

そうですね、ある面では。まだ子どもが小学生から下は保育園まで、3人いるんですけども、子育てをしつつ酪農のほうの仕事も全般的にやっています。逆に私の今住んでいる環境は酪農業という方が意外と少なく、子どもの親御さんと話をする機会があるんですけどね。やっぱり異業種の方が多いですよ。酪農家の方が少ないので、逆に私はこうしている、例えば仕事でトラクターに乗っているとか、ダンプに乗っているよという話をすると、「わーすごい、格好いい」と言うんです。結局、それは珍しいんですね。私にとっては、それは全然苦痛ではなくてそれはすごく嬉しい。確かに仕事は大変なんです。本当に忙しくて、ゆとりも、ある面ではあるけども、自分の趣味に費やす時間はなかつたりする面もあるんだけども、でも「格好いい」とか「すごい」というようなみんなの反応を聞くと、それが励みにもなっていますし、あとは学校教育のほうでも農業体験とか、結構うちの牧場のほうも来ているんですけども…。

〔知事〕

清里でしょう。

〔参加者〕

そうです。

〔知事〕

清里、ずいぶん多いんじゃないですか、酪農家は。

〔参加者〕

多いは多いですけども、やっぱり後継者が少なくなってきた、うちの牧場みたいに子育てをしながらしているという人たちが本当にもう2軒くらいしか・・・。

〔知事〕

まあ確かにそうだね。子育てをね、子育てをしているような若いご夫婦というのは少なくなっただけかもしれないね、確かにね。

〔参加者〕

本当に少ないんです。

〔知事〕

いやいやそれは貴重ですから是非がんばって下さいね。本当にね。奥さんはどうなんですか。

〔参加者〕

私も酪農をやっているんですけど、お話を聞いて少し・・・。

〔知事〕

反省しているわけですか。

〔参加者〕

かなり・・・。(笑)

〔知事〕

前向きに明るくやらなきゃだめですか。

〔参加者〕

常にお金のことばかり言っていて・・・。

〔知事〕

どちらでやっているんですか。

〔参加者〕

富士ヶ嶺です。

〔知事〕

富士ヶ嶺でね。そうか、富士ヶ嶺の厳しさというのは私もよく聞きますよ。ご夫婦でやっておられるわけですね。

〔参加者〕

子どもはまだ学校に行っていて、そっちもお金が掛かるんですよね。

〔知事〕

なるほどね。大変だけど是非一つがんばっていただいて。

〔参加者〕

ずいぶん怠慢なことをしていたなと反省しているんです。(笑)

〔知事〕

そうですね。いい所なんですけどね、富士ヶ嶺というのは、誠に。

〔参加者〕

ちょっとのんびりしすぎたなと。

〔知事〕

土地面積は広いし。

〔参加者〕

そうですね。富士ヶ嶺は酪農とかやるのにはいいですよ、広くて。長坂なんて本当に狭い所なので、大変な中でやっているんですよ。

〔知事〕

清里だって観光関係がだんだん広まって、そっちに移る人が多くて。

〔参加者〕

そうですね。ペンションに周りを覆われている所でやっているの、たい肥の施設の裏はペンションですし、もう冷や冷やしながらやっているんですよね。その辺やっぱり気を遣ってますよね。お客さんが来る時期はたい肥をいじったりすれば臭いがするので、たい肥をいじっちゃいけないとか、糞が道路にあってはまずいからきれいに掃いたり、そういう環境整備というのはとても気を遣いますね。

〔知事〕

富士ヶ嶺の場合にはやっぱりさっきおっしゃっていたけど、大規模経営をやろうということで相当設備投資したのが皆さんひびいているんですかね。

〔参加者〕

そうですね。一時そういう方向になりまして。狭い所でやっていけば、そういう堅実なやり方で来ているんじゃないかと思うんですけど、一時そういうふうな方向に全部が全部

走っていったということがあるんですね。そしてアメリカの大規模酪農で、牛を使い捨て状態というか、どんどん回転させていって、餌もちょっと濃いものを与えて、フリーストール牛舎で、不断給餌でいつも牛が食べれる状態にしておいて、それで乳量を今まで25キロぐらいでよく出ると言っていたものを、平均乳量を30キロぐらいに上げたりとか、またその分牛に無理がかかるので回転を早くしていったら、今度はそれに追いつくように牛をたくさん飼わなければいけないということで。やっぱり北海道みたいな大きなところとか、アメリカはもう桁違いに大きいですけど、そういう所だときっとそれも可能なのかもしれないですけど、富士ヶ嶺は広いと言ってもたかだか1軒6町歩、6ヘクタールぐらいで、それが全部草地にきれいになっているわけじゃないですから。それぐらいの規模でたくさんの牛を飼うとやっぱりどうしても購入飼料が必要になってきますよね。購入飼料は為替の変動でどんどん変わるんですよ。円高になったと思ったら、まあ円高になったといってもそんなにすぐは下がらないんですけど、ちょこっと下がって、それから円安になったと思ったら即反応して上がるんです。だから為替の変動で購入飼料で海外から入ってくる餌がほとんどなので、乾草にしても、それから穀物類にしても、今回のような世界的な不況になった場合にもものすごくダメージを受けるという現状があるんですね。本当はそういう所に頼らずに自分の所のキャパシティに応じた分を飼うような、牛を大事なしながら飼っていた頃のような酪農というのが必要じゃないかなとつくづく思います。

〔知事〕

確かにね。少し考え方を変えていくほうがいいかもしれませんね。観光的なものを加味してやっていくとか。ちょっと日本離れしていて、富士山もきれいだし、霧がちょっとかかるけれどもね。環境条件も素晴らしいし、いい所ですよ。

確かにアメリカ型の大規模経営から考え方を変えていく必要があるかもしれませんね。

〔参加者〕

中ではちゃんと成功している人もいますけどね。

〔知事〕

なかなか厳しいものですね。

ほかにいかがですか。何でもいいです。はい、どうぞ。

〔参加者〕

これは希望で、お願いしたいんですが、今でもフランスのほうに山梨県の支所というか、事務所があるんですか。

〔知事〕

フランスにはないですね。

〔参加者〕

ないですか。何年か前に主人たちがフランスに行った時には、フランスの現地に山梨県

のスタッフがいるということでしたので、もし今もそういうことがあれば、と思ひまして。今話を聞いていても分かるんですが、アメリカ型ではないヨーロッパ型の、ヨーロッパではどうして、そんなに大きくない酪農家でも畜産農家でも何か楽しく、ゆとりを持って農業をやっていけるのかというところを、もうちょっと子どもたちにも、これからの後継者の方たちにも勉強してほしいんですね。その時に、私たちが自分たちの力で行って現地で滞在しようとか、研修しようと言っても施設がないですね。だから県でぶどう農家にしろ、畜産農家にしろ、1カ月ぐらいのスパンで滞在しながら色々なやり方を勉強したり、それから周り中非常にきれいにしていますよね、外に対しても、中に対してもね。地域一体できれいにしようとするその姿勢とか、いろいろなものを勉強する、そういうのを後押ししてほしいんです。研修場所を見つけていただいたり、ぶどう酒にも力を入れていらっしゃるし、畜産の関係にしても非常に先進的な所に拠点をということじゃないけど、県の指導でそういう場所とかを確保してほしい。

〔知事〕

フランスのソーヌ・エ・ロアール県という県と姉妹提携をやっているんですけども、今はもう本当に形式、名ばかりのものになっちゃいましてね。向こうのほうが余り熱心でなくなりましてね。主としてはワインに関連した交流なんですけど、知事さんが変わってから全く交流がなくなっちゃったということなんですね。そういうことですからあまり交流がないんですが、確かにフランスもそうだし、オーストラリアとか、そういう所もそうかもしれない…。確かにヨーロッパはそうかもしれないね。色々な多角経営をやっていますよね。また国民が農業が好きでね、田舎が。いろんな形でそういう農家に滞在しては田舎の生活を楽しんでいるということがありますよね。だけどそれは大事なことです。

〔参加者〕

後継者が、先ほどおっしゃっていたように夢を持って畜産経営ができるような、どんな農家を目指してやっていったらいいのかというビジョンがはっきりと見えるような、そういう方法を考えて頂きたい。

〔知事〕

フランスはともかくとしても、日本でも、そういう成功している例というのは幾つかあるでしょうね。畜産経営を主体にしながら、多角的ないろんなことをやって全体として成功している例というのはあると思うんですね。

国内でそういうものを訪問したりして、後継者がおられればそういう後継者に対して色々研修したり何したりという機会があるんですか。

〔白砂 畜産課長〕

国内、そうですね・・・、今のところ事業としての位置付けはないと思います。

〔知事〕

そうですか。後継者の皆さん、若い方々に集まってもらっているような研修をする機会と

いうのは必要でしょうね。

〔白砂 畜産課長〕

事業化はしていませんが、ネットワークがありますので、それを利用して行くことは可能になっています。

〔知事〕

色々な経営をしておられる方々に研修とか、見聞を広める機会をもっと広げたいですね。そういうことをちょっと考えてみましょうかね。

あと、どうでしょうかね。

〔参加者〕

うちのほうは少子化で、今、学校の生徒数も小学校1年生から6年生までで30人前後というふうになってしまっています。何年か後には合併も余儀なくされるんじゃないかという…。でも校舎も建ててもらってまだ10年も経っていないと思うんですね。それでもしできたら農業をすることの楽しさというか、農業にかかわるといふことの素晴らしさとか、そういうものを県のほうで発信してもらえたら、と思います。農業をやりたいという人が、お年寄りばかりで土地を使ってない所とかを借りて農業できたり、子育てもそういう自然に恵まれた所でできるというような、そういう良さというのも伝えながらね。やっぱり子どもがいないと地域が活性化しないというか、活気がなくなっちゃうんですよ。子どもがいるということが本当に大事なことなので、遊休農地とか、後継者がいなくて農業しなくなった所とか、そういう所に農業をしたい人に住んでもらって、というような何かシステムができればいいなというふうに思います。

〔知事〕

それは大事なことです。畜産もですけど、特に桃とか、果物関係というのは特にそうなんですよ。みんな高齢化しちゃいましてね、家族経営ですからね。高齢化して大体67、8歳平均になっているわけですから、あと10年したらとても農業ができなくなりますね。そうすると結局みんな荒廃農地になってきますからね。これもやっぱり若い人、いろんな形でそういう人たちが入ってくるような形でないと、もう山梨も、特に果樹というのは成り立たないんですよ。これ非常に大事なことです。

しかしそうは言っても、この間農業協力隊という制度を作って都会の若者を募集したら、20人募集したところ80人来たりとか、やっぱり都会の若者というのは非常に農業とか畜産とか林業とか、そういうものに関心を持ってきている人が多いんですよ、すごくて。だからそういう人たちをうまく呼び込めればチャンスはあるんだろうと思うんですがね。

富士ヶ嶺でもやっぱり遊休農地が当然ありますから、そういう所でやればいいと思いますね。

〔参加者〕

今の話題にちょっと関連するんですけど、畜産も果樹もなんですけど、やっぱり連れ合

いがないとがんばれないと思うんですよ、家族がいないと。つまり後継者の話なんですけど。でも出会いの場がないんですね。だからそういうふうな若者が80人も、募集したら来たなんていうなら、中には結婚したいという方もいると思うんです。こういう出会いの場を山梨県でちょっと何かセッティングして・・・。(笑)

〔知事〕

奥さんのところの息子さんはどうですか。

〔参加者〕

独りなんです。まだ独り者なので、是非何とかしてもらいたい・・・。(笑)

〔知事〕

まあ一時期、県が結婚の相談をやったことがあるんですがね。

〔参加者〕

昔ときっと違って今はいると思うんですよ。

〔知事〕

いますよ、それはいますよ。女性だって農業が大好きな人がいますからね。だけど1回やったけど、専門の会社があるじゃないですか。あっちのほうはずっとうまくてね・・・。(笑) そっちに行ったほうがずっといいんですよ。

〔参加者〕

でも公共の、県とかいう立場のところではやっていただくと安心して参加できるというのがやっぱりありますよね。そういう第三者さん、企業とか、そういうところよりも・・・。

〔知事〕

やっぱりそれはそうですね。

〔参加者〕

市とかではやっていませんか。

〔参加者〕

やってないです。

〔参加者〕

北杜市はやってますよ。

〔知事〕

富士河口湖町はまだやっていないかな。

〔参加者〕

昔、県でセッティングしていただいて、結婚してずっと子どもさんもできて農業を旦那さんがやっている方もいらっしゃいます。お嫁さんが東京からみえたんですけど、お嫁さんはちゃんと酪農をやっておられてという方がいらっしゃいます。

〔参加者〕

すみません、個人的なことですけど、私、実は東京出身なんですね。私は本当、動物が好きということが根本にあって、動物関係の大学を目指したんですけど、そこはだめで、たまたま私の住んでいる所に中野サンプラザというのがあって、そこに職業関係の斡旋ではないんですけど、本など資料を置いている所があったんですね。そこでたまたま動物が好きだったので動物を調べていったら農業に行き着いて、そこには、農業の学校がある所が全国北海道から沖縄までばーっと書いてあったんです。私、それまでは県立の農業大学校とか、そういったものがあるということを全く知らなくて、今ではもうパソコンも普及しているから、すぐ調べることができると思うんですけど、その頃はまだなくて、その中でたまたま長野県の実践大学校という所があったので、そちらに行こうと思ったんです。そこからうちの旦那と巡り合ってそして結婚したんですよ。私も本当に農業をやるなんていうことは一切考えてもいなかったし、できるとも思わなかったんですね。本当にふとした縁だったんですけども、今酪農に嫁いでいるわけなんですけど、やっぱり好きな女性もいるんですよ。特に女性というのは好きだったらとことん、自分自身もやっていますし、特に女性は興味があって好きならば、本当に縁あればきっといい方向に向かうと思うんですよ。今特にテレビとかでも意外と農業関係がすごく見直されているじゃないですか。だからもっと県のほうで何か出会いの場をつくっていただければ・・・。

〔参加者〕

来てくれてありがとうね、山梨県に。

〔参加者〕

特に東京なんて、とても近いじゃないですか、山梨県と。中央道で2時間で来れる距離なので、すぐに出会いができるんじゃないかなと思います。

〔知事〕

結婚の問題というのは大変だね。農業を好きという女性もいるんですけど、サラリーマンであれば幾らでも出会いの機会がありますけどね、なかなか農業というのは自分一人でやっていくものだから、出会いの機会が難しいですよ。これはちょっと課題ですね。

〔司会者〕

言っておかないと心残りだという方・・・。

〔参加者〕

今の問題も含めてやっぱり山梨の農業の良さというのは外にどんどんアピールしなければいけないということはすごく思います。でも私たち個人個人で人に言うのには限度があるので、やっぱり県のほうでそういうものをホームページでも、どんな形でもアピールできるような体制を作っていただければいいかなと思います。

そして後継者の問題。やっぱり畜産というのは設備投資というのが莫大な金額なので、新規就農ってほとんど不可能だと私は思っているんですよ。

〔知事〕

新規就農は不可能ですか。

〔参加者〕

かなり不可能、ほとんど不可能に近いですね、今の時代ね。よほどの覚悟がないと新規就農は多分畜産の場合はできない。ましてや、この山梨とかは。北海道とかはまた別かもしれないですけどね。だからやっぱり後継者を育てるための何か対策を。

〔参加者〕

一つには県下で空いている牛舎とか、そういうものをピックアップして、そしてこういう所が空いているけど挑戦してみませんかというような形を取るのもいいなと思います。

〔知事〕

確かにね、そうですね。そういう牛舎の斡旋ですよ。

〔参加者〕

そうですね。もったいないじゃないですかね、せっかく多額の金を掛けて、ただああやって遊んでいるのは・・・もったいないですから、そういう所を利用させていただいて後継者育成ができればいいですよ。自分で自分の牛舎を持ってやるということになると本人も責任を持ちますし、それなりの張り合いを持ってやると思うんですよ。うちなんか東村山から子どもたちが夏期学習として遊びに来るんですよ。牛小屋に入って触ったり、餌をやったりね。東村山から、ここ2、3年続けて子どもたちが来ているんですけど、牛なんて触ったことないから喜んで触れ合いをしていくんですよ。

〔知事〕

白州なんかいいですよ。

〔参加者〕

それでおだてるとすごくやるんですよ。(笑)「僕、力があるね」なんて言えば、牧草の束を二つぐらい抱えて飛び歩くんですよ。そして後で手紙が来て、あの時はしんどかったと書いてあるんです。(笑)

〔参加者〕

何か小さいうちに入れるとアレルギーとかの体質が改善する、改善というかアレルギー体質にならないですむという、イギリスか何かの研究でありましたよね。

〔参加者〕

それでしょうっちゅうわざわざうちの牛舎に子どもを連れて遊びに来るお母さんがいましたよ。

〔参加者〕

免疫力を付けるのかね。

〔知事〕

アレルギーが治るんですか。どうしてでしょうね。

〔参加者〕

酪農家には少ないって。

〔知事〕

アレルギー体質はない。

〔参加者〕

少ない。ごめんなさい、うちの長男はアレルギー体質で・・・。(笑)

〔参加者〕

小さい頃からしょっちゅう牛舎の中に入出入りさせたら、アレルギー体質にならずに済むという研究がイギリスで何か発表されたということです。

〔参加者〕

だから体験学習で是非農場に行かせて下さいということですかね。

〔参加者〕

あとうちのところは、田舎暮らしということで都会の方が移り住んでくることが多いんですけど、畑にたい肥を春先入れますよね、そうすると捨てていると言うんですよね。それですぐに役場とか県の・・・。

〔知事〕

産廃を捨てていると思われる・・・。それはとんでもないですよ。

〔参加者〕

たい肥を捨てていると思ってしまう。理解ができない方もいます、というかそれは難しいですね。県のほうまで手紙を書く方がいるそうです。

〔知事〕

確かにそういう苦情はありますよね。この間、鳴沢でもそういう話があったよね、捨てているという騒ぎで・・・。

〔参加者〕

でも名前とか書かないんですね。ちょっと説明しましょうと思っても名前も書かないで手紙を出すのでね。

〔司会者〕

本当にお話は盛り上がってきて、なかなか切るのは申し訳ありませんけれども、予定の時間を過ぎてしまいましたので、知事のほうから感想を含めましてまとめのあいさつをいただきたいと思います。

〔知事〕

本当に貴重なお話を聞かせていただきましてありがとうございました。皆さん、それぞれいろんなご苦労をされながら、また問題を抱えながら一生懸命一家の中心になって畜産、酪農をやっておられるという姿がよく分かりまして、本当に心強く思ったところです。非常にご苦労が多い時代ではありますけれども、これは決して畜産、酪農だけではないのでしてね、もうあらゆる産業がそうなっていると思うんですね。通常の中小企業の皆さんなんかもう本当に大変な時代になっている。日本はそういう時代に入ってきたんですね。苦しいけども、しかしそれぞれが知恵を働かせて、工夫を凝らしてがんばっていくしかない、そういう時代になりましたね。県もそういった皆さんの努力をできるだけ応援をしたいというふうに思っておりますけれども、なかなか県の応援もどういことができるか難しいんですけれども、皆さん方から色々要望を出していただければ、できることは最大限やるようにしますから。いろんな集まりがおありになるんでしょう。もちろん畜産協会みたいな所でもいいし、その酪農組合というような所でもいいですし、女性の皆さんの集まりもあるんでしょうから、そういう所を通じて色々のご要望があれば出していただきたいと思います。

是非一つがんばって、山梨の畜産、酪農を大いに広げていただければというふうに思います。今日は皆さん本当にありがとうございました。

〔司会者〕

それでは以上をもちまして『ひざづめ談議』を終了させていただきます。